

令和4年度 美作市立大原中学校「重点目標と目標達成のための手立てと評価」

(A:達成できている、B:概ね達成できている、C:達成が不十分である)

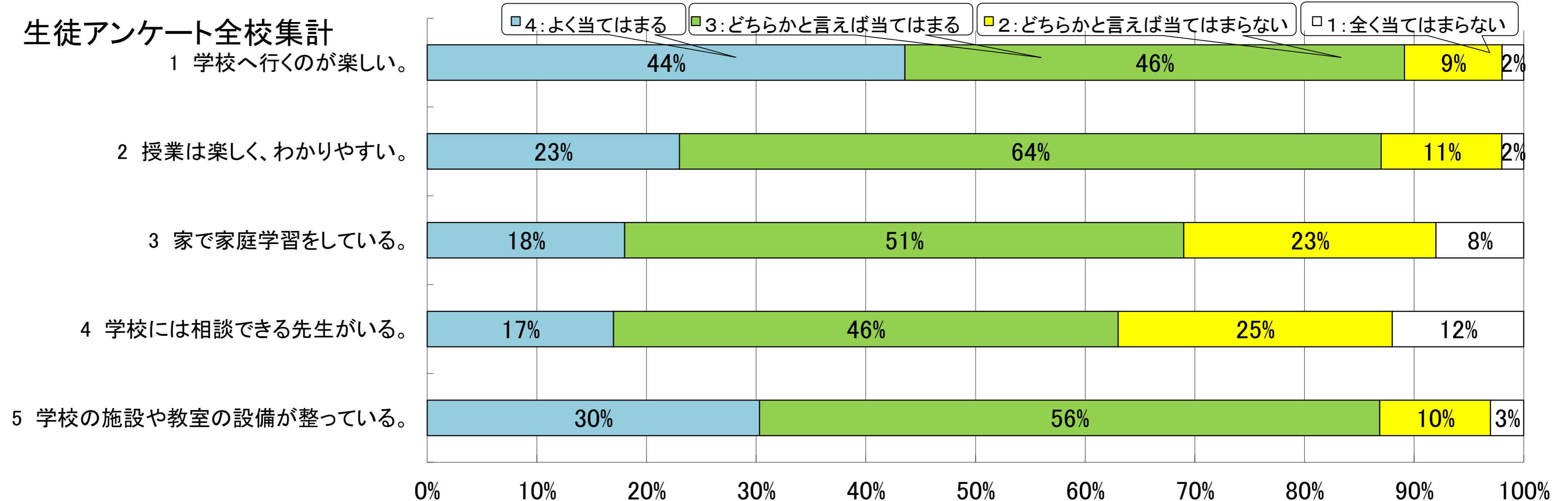
令和5年2月14日

	重点目標	目標達成のための手立て	具体的な評価基準	中間評価	中間期の達成状況と後半に向けての対応	年度末評価	達成状況と次年度に向けての対応	総合評価
確かな学力	基礎基本を徹底し、確かな学力を身につけさせる。	「分かった・できた・楽しい」授業づくりのために授業力を向上させる。	生徒が授業を楽しんでいると感じ、主体的に授業に取り組む工夫を行う。	A	7月の学校評価アンケートにおいて「授業は楽しくわかりやすい」の項目での肯定的意見が生徒90%で概ね評価できる。	A	12月末の学校評価アンケートにおいても「授業は楽しくわかりやすい」の項目での肯定的意見は生徒87%であり、概ね評価できると考えられる。	A
			授業のまとめや振り返りの活動を丁寧に行う。		肯定的に捉えている生徒や教職員が多くなっている。教科で偏りが見られるところもある。		中間期学習状況調査(2年)では、振り返る活動をよく行っていたかの間に対し、肯定的意見は74.3%であり、4月より8ポイントほど下がった。	
			一人一台端末の利活用を行う。		各教科で活用がなされているが、教科間や教員間で頻度に差が出ている。		校内では授業や健康観察等で活用がなされている。また、12月より持ち帰りを行っており、家庭で学習する際の活用もできるようになった。	
		授業と家庭学習の連動を図り、家庭での学習習慣を定着させる。	授業の振り返りと課題の出し方をつなげ、サイクルとフィードバックの取組を行う。	B	「授業内容の課題をスモールステップで課している」と回答した教職員は78%であり、まだ改善できることは多い。	B	課題をスモールステップで課すことについては、前回調査より6ポイント下がっている。更に意識した取組が必要である。	
			こども園・小学校と連携し保護者へ働きかけ、メディアコントロールの取組を充実させる。	A	学びの連携や生徒会本部の生徒との協働で取り組むことにより、成果が上がっている。	A	継続して、取組が行われており、その成果は上がっている。もっと生徒が主体的に取り組めるよう進めていけたらよい。	
			ふるさと学習に取り組み、郷土を愛する心情を育む	道徳、学活、総合的な学習の授業を体系化し、ふるさと学習の充実を図る。	B	総合学習等で地域に根差した学習を計画しているが、充実には至っていない。	A	
道徳郷土資料、サクセスセルフの授業により自己肯定感を育む。	計画的に実践することができ、i-checkの結果にも取組の成果が反映されている。	年間を通して、計画的に実施することができた。						
豊かな心	豊かな人間性を育み、いじめを許さない温かい集団づくりに取り組む。	自分のよさに気付き、自他ともに大切にできる心情を育む。	人権意識を育て、いじめを許さない態度を身につけさせる。	A	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒は97%となっている。	A	学年団を中心に、人権に関する学習を行っている。	A
			学校生活の満足度を高め、愛校心を育む。		学校に行くのが楽しいと回答した生徒は90%と、満足度の高い生徒が多くなっている。		12月末の学校評価アンケートにおいて「学校に行くのが楽しい」の項目での肯定的意見は生徒90%であり、概ね評価できると考えられる。	
		積極的な生徒指導により落ち着いた生活環境をつくり、規範意識を醸成する。	生徒会活動等で生徒が主体的に活動する場面を設定し、生徒の自治力を伸長する。	A	新しい企画や取組を生徒が考えて実践し、全校の意識も向上しつつある。	A	生徒会サミット、メディアコントロール週間、集会での校歌等に積極的・意欲的に取り組んだ。	
			行事や体験活動等を通して、自己肯定感、自己有用感を育成する。		体育祭、文化発表会等の行事等を通して生徒に活躍の場を与え、達成感や充実感を感じられるように取り組んだ。		その都度褒めたり評価したりすることを教職員が意識して行い、プラスの声かけが増えた。	
		個々の生徒の課題解決に向けて取り組む。	生徒理解を深め、寄り添い支え合いながら課題解決に向けて具体的な支援を行う。	B	学校評価アンケートにおいて「学校には相談できる先生がいる」の項目で肯定意見が生徒63%でやや低い結果である。	B	学校評価アンケート12月において「学校には相談できる先生がいる」で肯定意見が生徒63%、保護者70%でやや低い傾向である。教育相談体制の充実が必要である。	
			SC、SSW、外部機関と連携し長欠、不登校傾向の生徒の支援を組織的に行う。		定期的に不登校対策委員会開催し、外部機関等との連携も進んでいるが、大きな改善には至っていない。		大きな改善には至っていない。不登校対策委員会から重層的支援等外部との連携を進めるケースもある。	
地域保護者連携	学校と保護者の信頼関係を深め、地域とともに発展する学校づくりを目指す。	保護者、PTA、学びの連携等、地域や外部関係機関との連携協力を推進する。	A	コロナ禍で制約がある中ではあったが、工夫しながら取り組むことができています。	A	制約がある中、工夫しながらできることに取り組んだ。来年度の活動に向けて意見交換をすることができた。		
		学校だより、プレス等の活用により、積極的な情報発信を行う。	B	定期的に学校だよりを発行し、ホームページに公開している。プレス活用は、あまり進んでいない。	B	学校だよりの発行については、年間を通し進めることができた。今後、ホームページの効果的な活用、発信を考えていく必要がある。		
		学校地域協働本部活動の事業を活性化させる。	C	活動の活性化には至っていない。推進員と連携を密にしながら、進めていく必要がある。	C	活動について、推進員と連絡を取りながら進めた。活性化には至っていないが、今後も連携を図りながら進めていきたい。		
働き推進改革の	教職員の同僚性・協働性を高め、風通しの良い職場づくりをする。	不祥事0(ゼロ)のためにコンプライアンス研修を定期的に行う。	A	毎月コンプライアンス研修を様々な方法で実施し、職員の意識は高くなっている。	A	年間を通して、様々な方法でコンプライアンスに関する研修を行った。		
		「ほうれんそう」を徹底し、組織としての機動力を向上させる。	B	日常的に情報の共有化ができています。職員間のコミュニケーションもある程度できています。	B	問題発生時には各担当や主任が積極的に行動し、機動的に素早い対応を取ることができた。		
		校務分掌の機能を高め業務の平準化を図り、時間外勤務時間の削減を図る。	B	特定の教職員に業務が偏り、時間外勤務が増加する傾向がある。	B	昨年度に比べると時間外勤務は減少の傾向にある。しかし特定の教職員の時間外勤務が多くなっている状況がある。		

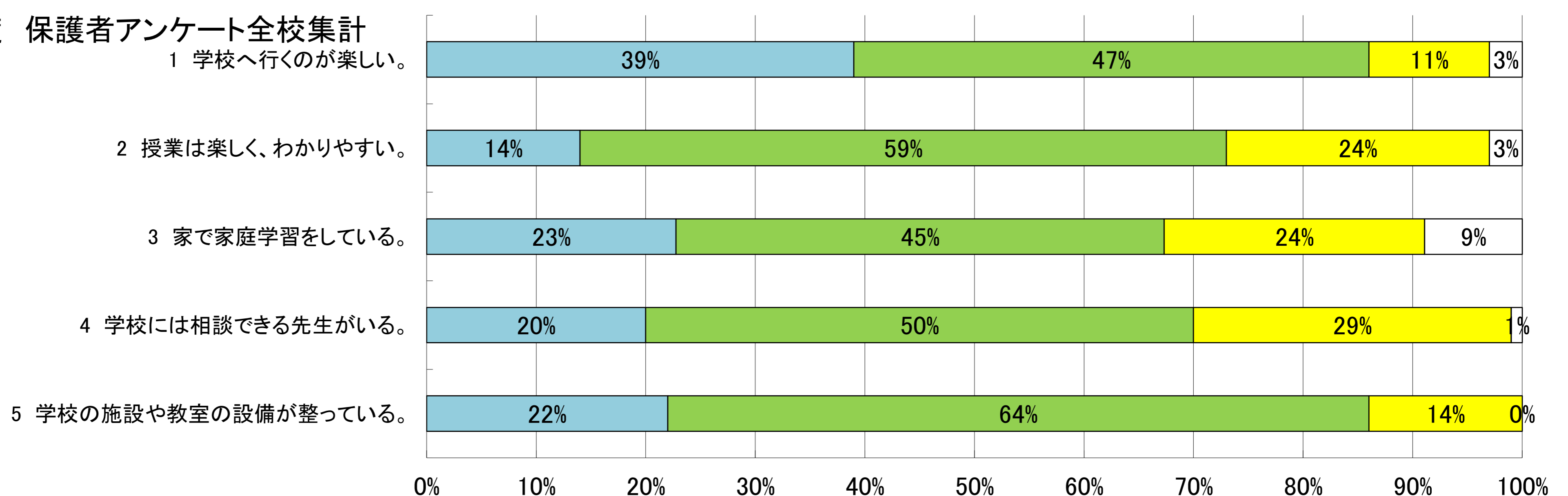
学校評価アンケート集計結果のお知らせ

平素より本校の教育活動に多大な御理解と御協力をいただき、大変ありがとうございます。2学期末に実施いたしました学校評価アンケートの集計結果をお知らせいたします。この結果を今後にかし、大原中学校の更なる向上に全職員で一丸となって取り組んでまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度 生徒アンケート全校集計



令和4年度 保護者アンケート全校集計



◆考察◆ — — — 回答率:生徒87%、保護者77%

<学校生活の向上について>

「学校へ行くのが楽しい」の項目については、生徒90%、保護者86%が「当てはまる」と回答しており、昨年とほぼ同じ結果となりました。全生徒にとって学校が楽しいと感じられ、明るく楽しい生活を送れるようになることが一番です。そのために授業の工夫や改善を図ったり、学校行事のあり方を検討したりしながら、生徒一人一人が今以上に充実感や満足感を持てるような環境づくりをしていきたいと思ひます。また、別の調査では「自分にはよいところがある」という項目で本校生徒の肯定率が全国平均とほぼ同じ結果となり、昨年度に比べ改善が見られます。学校では頑張りを認める、褒める等の声かけを増やすことにより「自己肯定感」を高めるための実践を行っています。今後も継続して取り組んでいきたいと思ひますので、御家庭においてもお子様の良いところや頑張りをを見つけて声に出し、褒めて認めるような関わりをお願いします。

<学習について>

「授業は楽しく、わかりやすい」について、生徒87%、保護者73%が「当てはまる」との回答があり、生徒は昨年に比べ若干減少しており、厳しい結果と受けとめています。学校では引き続き「基礎・基本の徹底」と「分かる楽しい授業」を目指して授業改善に努めていきます。また、一人一台のタブレットについては、今年度から学校での使用のほか、持ち帰りも始め、家庭学習等への活用を進めています。効果を検証しながら、多様な学びへつなげていきたいと思ひています。また、家庭学習についてはあまり改善が見られませんでした。生徒の学習に対する意識付けや意欲づくりをしっかりと行っていきたいと思ひます。なお、中間・期末テスト前には大原中学校区内の小学校・こども園と連携して「メディアコントロール週間」に取り組んでいます。御家庭でも気にかけていただき御協力くださいますようお願いいたします。

<教育相談体制の向上について>

「学校には相談できる先生がいる」について、「当てはまる」が生徒63%、保護者70%の回答で昨年と比べて生徒のポイントは若干減少しています。また、他の調査では「つらいことがあったときに、先生に相談できるか」という内容に関し全国平均よりも低い傾向にありました。学校では、生徒理解を深め一人一人を大切にす指導と、保護者の方との信頼関係を深めるべく取り組んでいます。しかし、十分な結果には至っていませんので、今後さらに努力を重ねていきたいと思ひます。

<学校環境の改善について>

開校し35年が経過し、修繕箇所も所々出てきています。すぐに対応できる場合もありますが、大がかりなものは市へ要望を行っています。今年度、テニスコートの整備等の御意見もいただいています。これをもとに、今後も生徒が安心安全に生活できるように、順次改善に向けて努力すると共に、伝統ある校舎を大切に使用していきたいと思ひます。

上記以外のことにつきましても貴重な御意見をいただきありがとうございました。それぞれの御意見を真摯に受け止め、関係機関と連携しながら教育活動の充実、及び施設整備等の改善にいかしていきたいと思ひます。